

最優秀賞（国土交通大臣賞） （作文の部 小学生）

『教室から見えるパイプを見て考えたこと』

【新潟県】糸魚川市立磯部小学校
四年生 丸山 あかり

私たちの教室のまどには、山の土手がせまっています。プールに向かう通路を一本こえると山の土手です。土手からは、校歌に歌われている城ヶみねに行くことができます。土手には、桜やあじさい、ドングリの木などが植えられています。だから、一年中、たくさんの花や生き物も集まってきます。

この土手に、不思議な水道があります。水ばんの高さは私たちの身長よりも大きいのです。ちょうど、学校の洗面所をたてに長くのびた形です。山からこの水ばんに、パイプが五本飛び出しています。いつも水がちょろちょろ出ていますが、水道のようなじゃ口はついていません。ただ、丸いパイプが山から飛び出しているだけです。私は、進級して教室が変わったときに、この水が気になり始めました。転勤してきた担任の先生も、

「あれなんだ。」

と、不思議そうにながめていました。でも、考えても考えても、何のための水道なのか分かりません。その水では誰も手を洗わないし、水も飲みません。でも、いつも水が少しずつ出ているのです。そこで、出てくる水の量に注意して見ていることにしました。

パイプは五本出ていますが、出てくる水の量は違っています。左の二本からたくさん出てきて、右の三本からは、少しずつです。コップにくんで見るととう明で、なんだか飲めそうです。思い切ってなめてみると、冷たくておいしい気もします。五年生が、山のけい流で見つけてきたわさびを育て始めると、少しずつ育っています。きっときれいな水なんだろうと思います。

梅雨になり、たくさん雨が降り始めると、流れ出る水の量も変わってきました。たくさん雨がふったパイプから勢いよく水があふれ出しています。いつもは出てこない右の三本のパイプからも、お風呂のじゃ口ぐらいの勢いで水が流れ出しています。雨がやんでも水の勢いは変わらず、やんで二日間ぐらいは勢いよく流れ出しています。でもそのうちに、またいつものように左の二本からだけ少しずつ流れるようになります。

この様子を見て、私はパイプの水は雨の量と関係しているのではないかと考えました。雨がそっこうに流れると、すぐに川の水が増えるけど、パイプの水は、一度土の中にしみこんで、それが流れ出るんだと思ったのです。だから、雨がふってしばらくすると水がたくさん出始めて、雨がやんでも二日間ぐらいは、たまった水がたくさん流れ出ているのではないかと思ったのです。でも、本当は何の水なのか気になって、管理員さんに聞いてみることにしました。ちょうどパイプのそばで草取りをしていた管理員の中村さんに、「どうしてパイプがあって、水が流れてくるんですか。」と聞くと、中村さんは、

「この水は、山の中にしみこんだ水を出しているんだよ。」

と、教えてくださいました。私の予想が半分当たっていて、うれしくなりました。中村さんはその他に、雨が土の中にたまって、土砂くずれをおこすもことになるので、このパイプを使って外に出していることを教えてくださいました。そういえば、私たちが学校にくる途中にも、何カ所も同じようにパイプが出ているところがあります。そこも同じように水が出ていて、どこも山がせまっているところですよ。

総合の勉強で、学校の横を流れている川に沿って、川の上流を調査しました。そこには、土石流防止の看板が何枚もたっていました。また、学校よりも大きい土石流防止せきが作られていました。初めは、かん板やせきが何のためにあるのか分からなかったけれど学校の横のパイプのことを考えたのをきっかけに、上流のかん板やせきのことが分かってきました。また、せきの近くには、土砂くずれで通行止めになった場所もあります。今、学校の前の道は上の方で通行止めにして道路を直す工事をしています。学校の土手も、このパイプがなかったら、土砂くずれになってしまうのかもしれない。

私たちの学校のある糸魚川市は、この夏、「世界ジオパーク」に認定されました。学校のある筒石地区も、「筒石・浜徳合ジオサイト」になりました。学校からは地そうがむきだしになったがけが見えます。ジオパークになってからは、地そうを見るために、何人ものお客さんがきて、私はうれしいです。たくさんのお客さんが来てもこんざつしなように、道路も広げてほしいけれど、山をけずりすぎて土砂くずれになるのはいやです。生活しやすいように、道も広げ、安全を守るために、このパイプやせきのような工夫も必要なんだと、パイプを見て考えました。